

地域課題の解決に向けた取組

森林整備の低コスト化と軽労化 及び林業専門知識の普及にむけて

網走南部森林管理署

〇これまでの経過と課題

網走南部森林管理署管内の民有林の人工林は多くが本格的な利用期を迎えています。このため、森林の循環利用を推進していくために、伐採から造林までの作業の低コスト化・軽労化を課題として、平成29年度から一貫作業システムやコンテナ苗、自走式下刈機等の現地検討会を国有林をフィールドとして行い、民有林への普及を進めてきました。



昨年の現地検討会

今年度は、地元市町村から要望が多かった「市町村等林務担当職員への林業知識の普及」と下刈作業の軽労化に向けた「自走式下刈機の仕様に応じた地拵え・植付けの仕様の検討」をテ

テーマとして取り組みました。

〇林業に関する勉強会

市町村等林務担当職員への林業知識普及の取組として、勉強会を開催しました。

内容は、林業の基本である樹種の見分け方等の基礎知識や「森林資源の現況と広葉樹利用の現状と課題」をテーマとして署長が講師を務めました。

勉強会は、コロナ禍であることに加え、質問や意見が言いやすい雰囲気作りなどから、少人数での開催としました。



現地で説明をする森林技術指導官

樹種の判別方法について、現地で樹皮の色や特徴、枝ぶりや香り等、葉の特徴に頼らない判別方法を紹介し、各樹種の用途や価値な

どを解説しました。

また、北海道の森林資源の状況、針葉樹・広葉樹の木材価格の推移やシラカンバ、ハンノキなどの需要の増加、人工林内広葉樹の有効活用を検討する必要性などについて説明しました。

最後の意見交換では、「現地実習から座学への流れがよく、理解しやすかった」等の意見をいただきました。

また、「町で管理している防風保安林について、具体的にどのような手入れをすればよいか」という切実な相談もあり、当署で計画している耕地防風保安林整備の現地検討会をご案内しました。

〇下刈作業の低コスト化と軽労化

これまで、機械地拵えによる下刈の省略、疎植や自走式下刈機などによる低コスト化や軽労化を推進するために現地検討会を開催してきました。

今年度は、下刈の機械化の推進を前提として、機械の性能を発揮させられる地拵え・植付けの仕様を検討

すると共に実証のための試験地を設定する取組を進めています。



自走式下刈機

〇今後に向けて

「森林・林業の基礎知識勉強会」については、北見地区の有志協でも各市町村長からの継続要望もあり、アンケート結果や市町村からの要望を踏まえ、内容の充実を図っていきます。

また、今後は管内の森林組合職員等幅広い関係者と当署の若手職員の意見交換等の実施により、地域の連携にも役立てたいと考えています。

今後、各市町村の課題解決に向けて力になれるよう取組を推進していきたいと考えています。